

2021 年度（令和 3 年度）

第 1 回 学校関係者評価委員会 議事録

日 時：令和 3 年 7 月 26 日(月) 19：00～20：30

場 所：福山医療専門学校内 1 階 会議室（リモート開催）

記録者：清水 麻住

出席者：11 名

島田 昌広、篠澤 浩二、西川 文雄、灰垣 俊志、東 京太郎、仁泉 健太郎、村上 彰宏
濱藤 春暉、曾田 修治、藪田 素子、清水 麻住（学園教職員）

欠席者：2 名

望月 重伸、住田 祐輝

1. 開会挨拶

仁泉（副学校長・副委員長）より挨拶

委員会の目的を説明したい。この委員会は、学校評価を通じて継続的な教育活動の改善と学生及び卒業生、関係業界等との連携協力をすることで、特色ある学校創りの推進となる。各学科よりまとめられている評価に基づいて忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 学校長・委員長挨拶

東（学校長・委員長）より挨拶

医学教育の場において、学生を中心に教員、家族などの「個人との関わり合いができる場」をもっと高めていきたい。昨今 SNS の急激な発展により、人と人とのコミュニケーション不足が懸念されている。本校の教育においてもコミュニケーションが原因で学習に支障をきたしている学生がいるのかどうか、その「気づき」と「成長」を大切にしたい。

今回は、「現状」について、各学科からの評価に対してのご意見を委員の皆様からいただきたい。（挨拶の後、議事録作成の指名と議事録署名人の指名があった）

3. 報告事項

本会議の議長に東学校長、記録者に清水事務次長を指名し、下記の議事審議に入る。

議案 1 2020 年度（令和 2 年度）における問題点について

各学科長から 2020 年度後期授業評価・客観的な指標に基づく成績分布の報告があった。

濱藤（作業療法学科 学科長）

2020 年度成績分布について

- ・1年生の下位 1/4 に該当する人数 5 名で平均点 68 点であった。クラスの半数が 80 点以上を獲得しており、微力な学力差が生じている。
- ・2年生は、下位 1/4 に該当する人数 4 名で平均点 68 点であった。しかし、上位の点数は 70 点台が多く、全体的に低い。適切なリメディアル教育が最も必要と考えている。
- ・3年生は、下位 1/4 に該当する人数 4 名で平均点 70 点であったが、全体の 82% が 70 点台ということもあり、リメディアル教育はもちろん、個別対応での教育が必要なレベルと考えている。
- ・4年生も同様に、下位 1/4 に該当する人数 4 名で平均点は 70 点。この学年は全体の 44% が 60 点台、55% が 70 点台であった。4 学年の中でも一番学力が低い層が多いため、国試に向けて集中講義が必要と考えている。必要に応じて個別対応も増やさなければならぬ。

2020 年度 授業評価結果について

- ・学生からの評価は講師への疑問点も特になく、現状問題ない。
- ・感染対策として、標準予防策を学生に促し、Googleclassroom を活用した健康チェック導入による自己の体調管理を促したことで感染拡大防止に努めた。
- ・予習復習については依然十分行えていないが、対策により「授業準備が必要」という学生の意識改善ができた。
- ・退学者について、4 名となった。令和元年度 1.1% に比べて 4.5% と増加しており、今後改善が必要である。

村上（理学療法学科 学科長）

2020 年度成績分布について

- ・1年生の下位 1/4 に該当する人数 11 名で平均点 69 点であった。クラスの 54% が 80 点以上を獲得しており、安定的に学力は向上している。下位層については、学力差があるため、基礎科目からの学び直しが必要となる。
- ・2年生は、下位 1/4 に該当する人数 7 名で平均点 74 点であった。全体的に学力が 80 点台にまとまっているので、このまま伸ばしていきたい。コロナ禍で、臨床実習が開始となるので、施設の協力を仰ぎながら予定通り実施していく。
- ・3年生は、下位 1/4 に該当する人数 7 名で平均点 74 点であった。全体の 86% が 80 点台となり、学力が伸びている。
- ・4年生は、下位 1/4 に該当する人数 19 名で平均点 63 点であった。全体の 67% が 60 点台となり、かなりの学力不足が見受けられる。個別対応での基礎教育をしないと国家試験まで必要なレベルに到達しない。

2020 年度 授業評価結果について

- ・一部講師の都合にてオンライン講義を実施したが、資料の見やすさや授業アンケートの内容が見やすいと好評であり、対応の柔軟さが良かった。
- ・感染対策として、標準予防策を学生に促し、Googleclassroom を活用した健康チェック導入による自己の体調管理を促したことで感染拡大防止に努めた。
- ・退学者について、6名となった。令和元年度は11名比べて5名の54%減少しており、改善結果がでてきた。今後も継続して個々に合わせた指導をしていく。

曾田（救急救命学科 学科長）

2020年度成績分布について

- ・1年生の下位1/4に該当する人数3名で平均点75点であった。クラス全体で80点以上が多く、基礎学力のあるクラスとなる。学力のばらつきもないため、このまま底上げしたい。
- ・2年生も同様に下位1/4に該当する人数3名で平均点75点であった。実習も始まったが、問題なく理解が深まっている。「即戦力となる学生教育」、「国家試験合格100%」を目指し、国試サポートも強化していく。
- ・3年生は、下位1/4に該当する人数は2名で平均点76点であった。国家試験対策としての成果も上がっており、日頃の小テストを繰り返し行っていく。60点台の学生が2名おり、国家試験合格ラインに到達していないので、個別指導を強化する。

2020年度 授業評価結果について

- ・アンケートより、一定の学生からは評価を獲られているが、自主的な学習に関しては、低い得点となっている。学内の学習態度からも居眠りをする学生が多いため、自主性を促せる環境作りが必要である。
- ・退学者について、1名となった。令和元年度は3名と比べて2名減少。後期に実施した「VR授業」のデモンストレーションが学生からも高い満足が得られ、今後の教育環境や内容の参考になる結果となった。

藪田（看護学科 学科長）

2020年度成績分布について

- ・1年生の下位1/4に該当する人数12名で平均点72点であった。クラス全体で80点以上が57%を占め、基礎学力がついている。基礎看護学実習に対応できる学力をつけていき、臨地実習に活かしていきたい。
- ・2年生は、下位1/4に該当する人数9名で平均点69点であった。
国試対策について、昨年度7月より学習指導を強化したが、実習の中止や再開の兼ね合いもあり、学生に負担がかかった。今年も早期から取り組む必要があると考えている。
- ・3年生は、下位1/4に該当する人数は7名で平均点63点であった。国家試験対策としての個別に強化してきたが、60点台の学生が全体の40%占め、国家試験合格レベルには到

達困難な状況であった。12月に学習塾を開講し、何とか72%まで合格率を向上できた。

2020年度 授業評価結果について

- ・アンケート評価では、形式的に評価しながら展開したが、授業の満足度、理解度を得るに至らなかった科目があった。1年生では1日5時限まで開講していることもあり、学習の効率が悪いという結果も見えた。コロナ禍で、オンライン授業が一部常態化した科目もあったが、昨年度より活用スキルが飛躍的に向上した。
- ・退学者について、20名となった。令和元年度は8名と比べて2.5倍増加。学習効果が悪いことが原因とみられるため、科目配置を再度検討し、学生がしっかり学べるよう学習時間を確保できることを第一に考えていく。

4. 報告に対する意見

仁泉副委員長

各学科の報告事項に関して具体的な提言をお願いします。

西川（企業等評価委員）

人としての成長が一番大事である。現場で「患者さんのために」という気持ちを育めるように、普段よりチーム医療の考え方を重視した授業が大切。理論と実践が医療人を育てていくので、コロナ禍で実践時間の減少が社会にでた卒業生にどの程度の影響を与えているのかが気になる点である。しっかりとしたフォローが在校生を含めて必要である。

村上（理学療法学科 学科長）

国試合格率は全国平均を上回っていた。受験者数が多くなると、教員のフォローも分散してしまう面もあるので、退学率と国試合格率はリンクしていない。

藪田（看護学科 学科長）

コロナ禍でオンライン授業も含め、いろんな取り組みを行ってきた。学外での実習が極端に減少したことが大きな壁になる。ほとんどの学生が高卒過程の学力で、学生の質も変化があったと考える。経験が少ない分、現場でつまづく学生も多いので、その対応とフォローは教員にとって大きな使命となる。

5. 閉会の挨拶

仁泉副委員長

今後の当校の方向性、次回委員会開催予定などについての説明行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。